

# 多世代交流から生まれるもの



Interview

平成30年からジョイサウンズの指揮者を務め、神村学園のマーチング招致や鹿屋中央高校との合同演奏など、生の音楽に触れる機会を大切にしている。吹奏楽の指導は田代小で5校目となる、昭和42年生まれ、53歳。

ジョイサウンズ 指揮者 田代小学校 畑 隆宏 さん

2年ほど前からジョイサウンズの指揮を務める畑隆宏さんは、これまで県内4つの小学校で吹奏楽部を指導してきました。これまでの経験から見たジョイサウンズの活動は県内でも珍しく、核家族化が進み、多世代交流の必要性が叫ばれる現代にこそ求められている姿なのではと話します。

「練習風景を見て分かるように、いつも笑顔や笑い声が絶えません。最年少は小学5年生、最年長は今年70歳と幅広い年代ですが、同じ目標に向かって互いに支え合い、取り組めるからではないでしょうか。肝属地区内でも吹奏楽部のある小学校は減り続け、コンクールも合同で出場する学校が増えています。少子化に歯止めがかからない今、ジョイサウンズは10年、20年先にある新たな地域グループの姿なのかもしれません。」

高校の吹奏楽コンクールでは最大55名まで出場でき、編成人数が多いほど音圧のあるダイナミックな演奏ができると言われる、吹奏楽の世界。ジョイサウンズは最大でも20名と小編成ながらも、楽器をいくつも掛け持ちしながら、その人数の少なさを感じさせない繊細かつ臨場感のある演奏で、観る人を惹きつけています。

「例えばホルン奏者はいませんが、

そのパートをサクソ奏者がカバーしています。一見簡単そうですが、ホルンの楽譜を頭で変換して演奏することは至難の業。長年積み重ねた技術があるからこそです。子どもたちにとっても目の当たりにする経験者の対応は刺激になり、フルートを担当する中学生の姫ヶ迫あかりさんも、足りないパートを補うためにグロックンまで演奏します。自分の技術向上だけではなく、チームとして音楽を届けるためにそれぞれが何をすればいいか考える力が、これから社会に出たとき子どもたちの強みになるはず」と期待を込めます。

## 貴重な体験を通じた大きな成長

相次ぐイベントの中止で、昨年はわずか2回の公演だったジョイサウンズですが、自主公演ともう一つのステージが、『音楽で勇氣と元気を届けたい』と鹿屋中央高校吹奏楽部が企画した大隅巡回演奏会でした。

「コロナ禍で演奏会場の借用すら困難を極めていました」と話すのは、鹿屋中央高校で吹奏楽部の顧問を務める末廣さん。畑さんに相談したことがきっかけとなり、ジョイサウンズと鹿屋中央高校による、50名

を超える大編成で合同演奏を披露します。事前に共有した楽譜でそれぞれが練習し、当日に音合わせを行うなど、コロナ禍での新たな演奏会の形を模索しながら成功させました。

## 「経験したことのない迫力だった」と口をそろえ、興奮しながら目を輝かせた子どもたち。高校生と大編成演奏するという貴重な体験を通じ、ジョイサウンズが目指す地域グループの姿が垣間見えた瞬間でした。

## 本質を見失わず続けることでその先にある真の価値を知る

「人が少ないから、予算がないからと理由を並べて止めるのではなく、どんな状況でも続けることが重要です。イベントや演奏会はその自体が目的ではなく手段。その先にある、人づくりや地域づくりにこそ活動の本質があるのです。少子化で子どもが減れば一人ひとりの負担は増え、求めすぎることでは潰れてしまいます。イベントも同様に、今できることをできる範囲で、工夫しながら開催したいと思っています」と、前例のないコロナ禍だからこそ力強く前を向いた君付忠和さんは、次のステージに向け歩き出しています。



## 「諦めずにできることを。音楽の力で精一杯の恩返し——。」

全国高校総体が史上初めて中止となった異例の年。3年生にとって最後の大会になるはずだった吹奏楽コンクールやマーチングコンテストはすべて中止に追い込まれました。かごしま国体の開会式において3校合同で披露するはずだったマーチングは、1度の練習もできずに延期が決定。これまで目指してきた大きな目標を失った喪失感は大きかったと思います。しかし生徒たちは諦めませんでした。これまで支えてくれた人たちへの恩返しは、諦めず前を向いて演奏することだと、3日間かけて大隅半島を巡回する演奏会を企画したのです。大切なことは、最後まで諦めずに挑戦することです。コロナという前例のない災害を前に、仲間と手を取り合って踏み出したこの一歩は、きっとこの先の成長につながるはずです。

鹿屋中央高等学校 吹奏楽部 顧問 末廣 孝 さん

◎末廣 孝 (すえひろ・たかし)

武蔵野音楽大学でオーボエを専攻し、陸上自衛隊東京中央音楽隊、樹十字屋音楽普及課を経て、10年前から鹿屋中央高校吹奏楽部の顧問を務める。鹿児島交響楽団に所属し、サザンウインド吹奏楽団の代表も務める、鹿児島市出身の64歳。